

道路

越波対策 護岸 石積 ハラベット 周辺景観への影響を最小限にとどめる
排水 案内サイン 世界遺産候補 工法で護岸を改修

【一般県道奈留島線道路災害防除工事（江上地区）】

事業概要

五島市奈留町大串
延長100m
海に面した県道の越波対策工事（護岸の再構築と嵩上げ）

地域の特徴

五島市の二次離島、奈留島の北西部に位置し、海と山に囲まれた自然豊かな小集落である。集落内には九州自然歩道が通っているほか、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の構成資産である江上天主堂（重要文化財）もあり、観光地として人気が高い。

専門家の意見

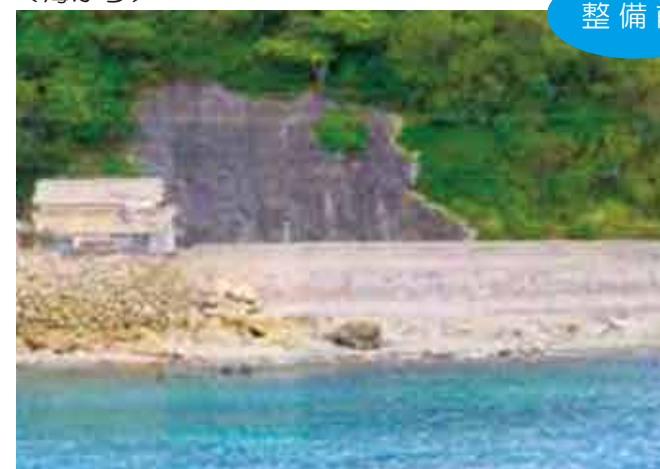
- ① 来訪者の中には船を利用する人もいるので、海側からの眺望を考慮するとともに、教会からの視点、小学校からの視点も含め検討した方がよい。
- ② 景観や環境への影響が少ない構造形式とした方がよい。
- ③ 護岸はコンクリート二次製品で造るより、既設護岸に合わせ自然石を利用した方がよい。
- ④ 陸側からの眺望に配慮し、サインやミラーの位置を工夫した方がよい。
- ⑤ 排水管の見え方も考慮した方がよい。
- ⑥ 石積護岸の基礎部コンクリートが見えないよう工夫してはどうか。

配慮した点

- I 海上からのアクセスの際や教会など複数の視点場からの見え方に配慮した。（意見①～⑥）
- II 考えられる工法を複数案検討し、環境に与える影響を最小限にとどめられる工法を選定した。（意見①②）

【整備前後】

<海から>



整備前



整備後

<教会から>



整備前



整備後



周辺景観に馴染む工法を採用した護岸

【整備のポイント】

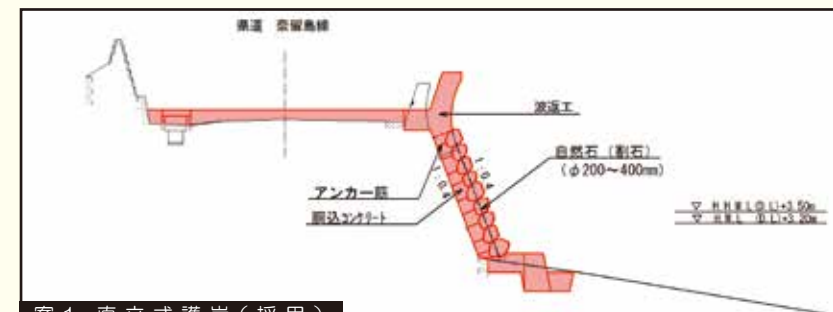
<意見①>



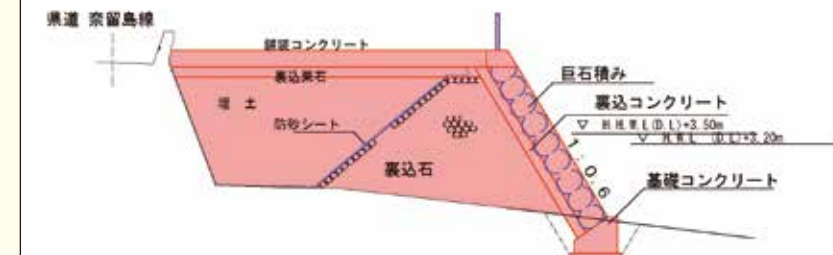
各視点場からの見え方（景観面）、利用面、環境面、施工性、管理面、経済性の観点から3つの構造形式を評価し、総合的な判断から案1の「直立護岸方式」を選定した。

- ・景観面：江上天主堂とその周辺の景観への影響は、案1が比較的小さい。
- ・利用面：案1のみが現況とほとんど変化なし。
- ・環境面：案1が最も海への影響が小さい。
- ・施工性：案1が最も施工しやすい。
- ・管理面：管理は案1が最も容易である。
- ・経済性：案3が一番高く、案1と案2では大差ない。

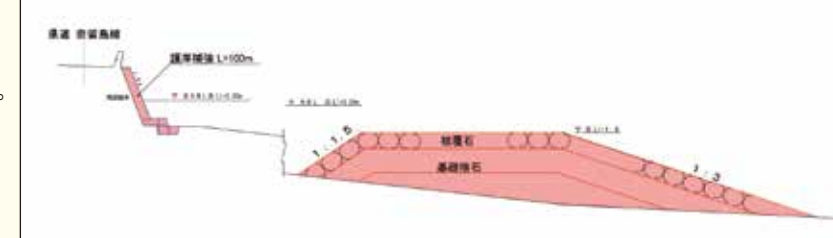
<意見②>



案1 直立式護岸（採用）



案2 ハラベット後退式護岸



案3 潜堤

<地元の意見>

- ・この地区は教会があるため、景観が悪化するような工事はしないでほしい。
- ・案1（直立式護岸）を石張りにした案で整備した方がよい。
- ・案2（ハラベット後退式護岸）は、海面より高い位置まで埋めあげるため、景観的な影響が大きいのではないか。
- ・江神漁港は荒天時における漁船の避難港となっているので、案3（潜堤）は船舶への影響が大きいのではないか。また、干潮の時に潜堤が海面上に出てきて景観的にも問題があるのではないか。



石積の高さや表面の仕上げを既設護岸に合わせた。（意見③）



サインの位置を変更し、ミラーの高さを抑えることで、海への眺望に配慮した。（意見④）



排水管が護岸前面に出ないように配慮した。（意見⑤）

まとめ

- ・重要な視点場からの見え方をCG等によって詳細に検討し、最も景観への影響が小さい構造形式を選定している。その上で細部（ディテール）についても丁寧に検討されている。地元産の自然石を使用したことで、周辺景観への馴染みが良く、同時にコストが抑えられた事例である。
- ・意見⑥にあるように、基礎部のコンクリートを隠すための検討も行ったが、感潮帯であり、経年とともに黒ずんで目立たなくなると判断し、特に対策は行わなかった。

道路

道路拡幅 側溝 ガードパイプ 護岸 重要文化的景観のしまで、
石積 世界遺産候補 重要文化的景観 自然環境や眺望に配慮した道路を整備

【一般県道久賀島線道路改良工事（田ノ浦工区）】

事業概要

五島市田ノ浦町
延長560m、幅員5.0m（1車線、歩道なし）
海沿いを通る県道の拡幅・改良工事
（護岸の前出し、側溝・防護柵の設置）

地域の特徴

五島市の二次離島、久賀島の南西部に位置し、福江島との定期船が発着する港である。島内には「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の構成資産である旧五輪教会堂（重要文化財）があり、島全体が重要文化的景観にも選定されたことから、観光客の往来が増えている。

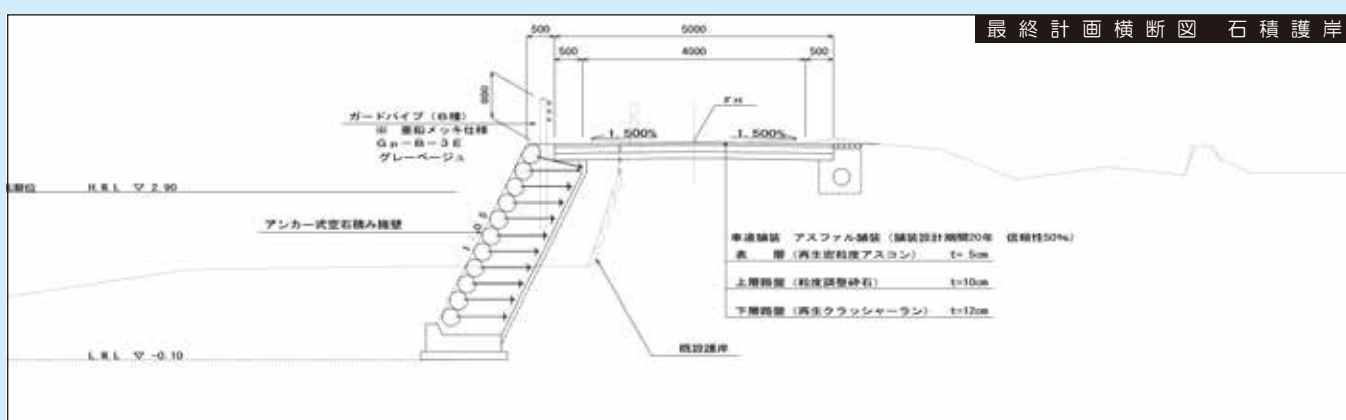
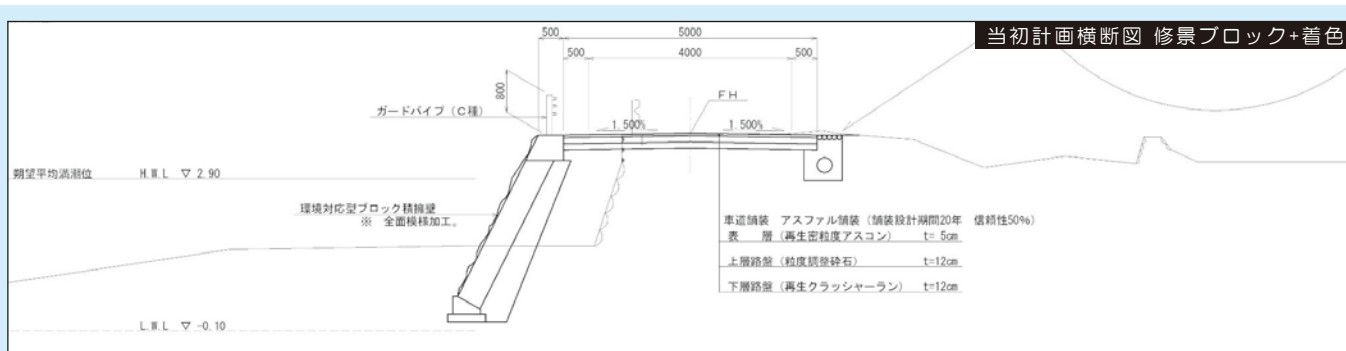
専門家の意見

- ①現状の護岸は石積である。修景ブロックは石に見えないので、例えば25～30m毎に捨石を護岸の前においてはどうか。
- ②側溝に関する配慮がよい。
- ③小学校跡地の前面は、海側へ下りられるようガードレールがない方がよい。

配慮した点

- I 石積護岸とすることで自然景観との調和を図った。（意見①）
- II 側溝を砕石敷きとすることで、人工構造物が目立たない工夫をした。（意見②）
- III 透過性が高いガードパイプを採用し、海への眺望を阻害しない工夫をした。

【構造の検討】



砕石敷きの側溝

【整備前後】



整備前



整備後

【整備のポイント】



まとめ

- ・コストアップを伴うことなく、周辺の自然景観や集落景観と調和した施設を整備することができた事例である。

道路

道路改築
ブロック積
ガードレール
植栽
落石防護柵
重要文化的景観

重要文化的景観の区域で、
自然景観に配慮して擁壁の前面を緑化

【一般県道津和崎立串線道路改良工事（津和崎工区）】

事業概要

新上五島町津和崎郷
延長60m、幅員6.0m（1車線、歩道なし）
山あいを通る県道の拡幅・改良工事
（擁壁の築造、側溝・防護柵の設置）



現場発生材を活用した植栽ポケット

地域の特徴

五島列島中通島の最北端に位置し、沿岸部の浸食地形には漁村が、地すべり地形による比較的緩やかな斜面地には農村が立地するという対照的な集落形態を有していることから、重要文化的景観の区域に選定されている。

専門家の意見

- ①ブロック積擁壁が高い場所（2～3m）は目線の高さを和らげるためにツタ類を植栽してはどうか。
- ②落石防護柵やガードレールは、自然景観に合うようにダークグレー、こげ茶、黒に近い色がよいのではないか。

配慮した点

- I ブロック積や擁壁が目立たないよう工夫した。（意見①）
- II 落石防護柵やガードレールの色が目立たないよう配慮した。（意見②）

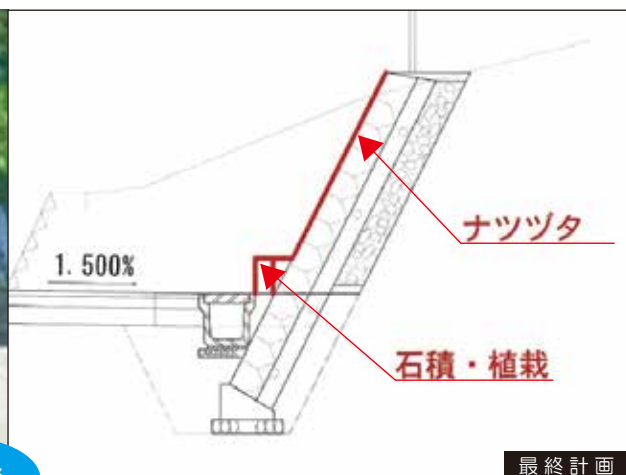
【整備前後】



整備前



整備後



最終計画

【植栽の生育状況】



施工後約2年

【整備のポイント】



工事で発生した石を積んでツタを植生し、壁面に這わせる工夫をした。（意見①）



落石防護柵はこの場所に合った色を採用した。（亜鉛メッキ）（意見②）



ガードレールはこの場所に合った色を採用した。（亜鉛メッキ）（意見②）

まとめ

- ・植栽により、ブロック積擁壁を上手く隠すことができた事例である。
- ・落石防護柵やガードレールは、ダークグレーやグレーベージュに拘らずに、場所によっては素材色のままが景観に馴染む場合があるので、その場所に合った色を検討することが必要である。

道路

道路拡幅 歩道舗装 照明灯 橋 梁
高欄 世界遺産候補 ワークショップ

地域住民との協働により、
低コストで「ちょっとよい道」を整備

【主要地方道小浜北有馬線道路改良工事（谷川工区）】

事業概要

南島原市北有馬町
延長1,000m、幅員13.0m（2車線十両側歩道）
市街地内を通る県道の拡幅・改良工事
（歩道の整備、側溝の設置、橋梁の架替え、街路樹の植栽）
※生活に密着した道路であることから、地域住民の意見を反映させるため、ワークショップを開催してデザインの検討を行った。



歩道のデザインを工夫

地域の特徴

島原半島の南部、有馬川下流域に位置する旧北有馬町の中心市街地である。周囲には水田が広がり、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の構成資産である日野江城跡（国指定史跡）や修道士の養成機関であったセミナリヨ跡にも近い。

専門家の意見

- ①宅地への乗入口が多いことを逆手に取り「住む人の道」を演出してはどうか。
- ②連続照明の設置が困難なら、フットライトで代替機能を持たせてはどうか。
- ③クリスマスイルミネーションに対応した設備を置いてはどうか。
- ④役場前の橋に特別な飾りは必要ないので、既製品を使ってシンプルなデザインにしてはどうか。

配慮した点

- I 広幅員の歩道が単調にならないよう、舗装の素材やパターンを工夫した。（意見①②）
- II 南島原市のまちづくりに配慮した。（意見③）

【整備前後】



整備前



整備前

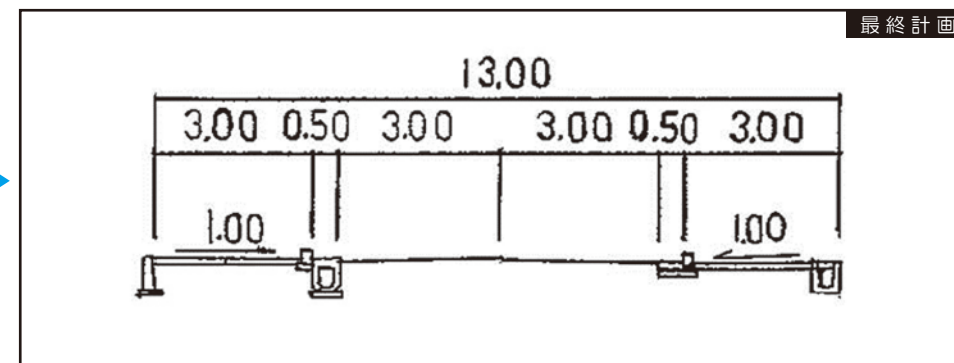
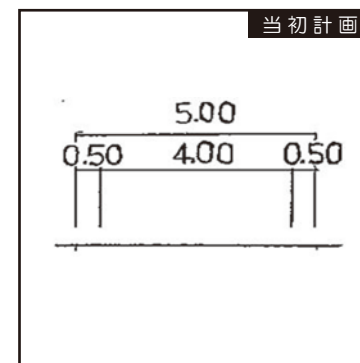


整備後



整備後

【計画変更】



【整備のポイント】



アスファルト舗装をベースに乗入口部分にボーダーを設けて変化をもたせた。（意見①）
デザインについては、実際の舗装ブロックを使って、住民参加のワークショップで検討を行った。



植栽枡に設置されたフットライトとコンセント（意見②③）



橋梁には親柱を設置せず、高欄もシンプルな既製品を採用した。（意見④）

まとめ

- ・限られた予算の中でメリハリをつけたデザインとしたことにより、比較的 low コストで過度に飾らない「ちょっとよい道」ができた事例である。
- ・設計段階から住民ワークショップを開催したことにより、「みち」に対する住民の愛着が醸成されたとともに、事業実施段階での協力体制が図られた。

道路

道路拡幅 歩道舗装 照明灯 転落防止柵 地域住民との協働により、
植栽 広場 ユニバーサルデザイン ワークショップ 誰もが使いやすい快適な道路空間を創出

【都市計画道路栄上為石線街路事業】

事業概要

長崎市為石町
延長1,580m、幅員16.0m（2車線+両側歩道）
市街地内を通る県道の拡幅・改良工事
（擁壁の築造、歩道の整備、側溝・防護柵・照明灯の設置、街路樹の植栽、ポケットパークの整備）
※生活に密着した道路であることから、中学生を含む地元住民の意見を反映させるため、ワークショップを開催してデザインの検討を行った。



ユニバーサルデザインの歩道

地域の特徴

野母半島の南寄りに位置する旧三和町の中心市街地で、大川に沿った細長い平地である。地区内には、行政センターや小中学校、福祉施設などが立地しており、子どもから高齢者まで、多くの住民が行き交っている。

専門家の意見

- ① 進行方向に向かって左右に表面の粗さが異なる舗装を用いることで、視覚障がい者がその境界を目印に歩けるようにしてはどうか。
- ② 車椅子が通りやすい、凹凸が少ない舗装を用いた方がよい。
- ③ 河川と並行する区間はウッドデッキを用い、川を眺めたり自然や体にやさしい歩道とするとよい。
- ④ 四季を感じられるような街路樹があるとよい。
- ⑤ 必要な明るさを保ちつつ癒しがあるような照明がよい（木製照明灯）。

配慮した点

- I 車いす利用者や視覚障がい者が利用しやすいよう工夫した。（意見①②）
- II 並行する大川への眺望や植栽を工夫した。（意見③④）
- III 通学路であることを考慮して十分な夜間の明るさを検討した。（意見⑤）

【整備前後】

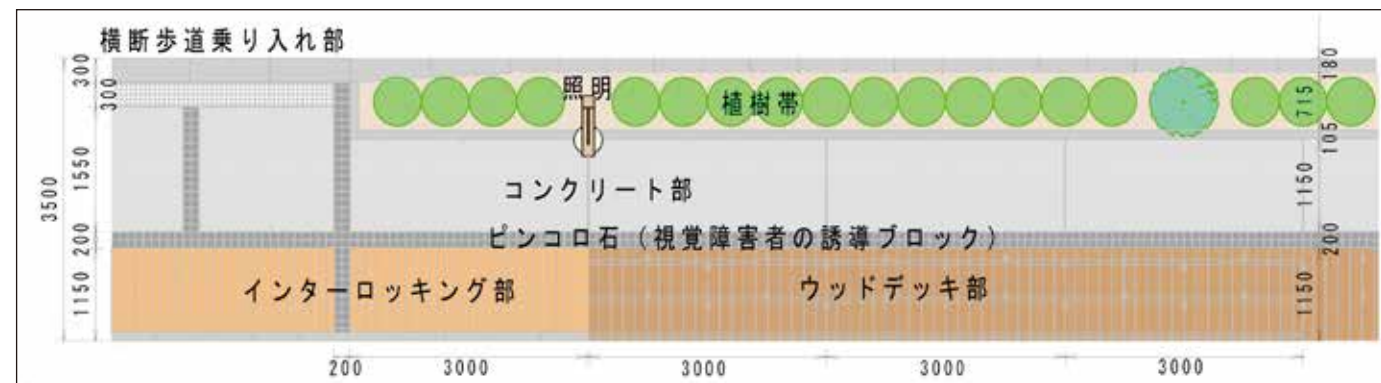


整備前



整備後

【歩道舗装パターン】



【整備のポイント】



点字ブロックについて、通常の黄色に替えてピンコロ石を並べ、ピンコロ石の左右で色をくっきりと変えることで、視認しやすいよう配慮した。（意見①②）



河川と並行する区間はウッドデッキを設置し、河川への眺望を楽しめる空間とした。（意見③）



転落防止柵も眺望に配慮したデザインとした。（意見③）



街路樹は周辺の環境にあったモチノキとツツジ類とした。（意見④）



木製照明の提案があったが、維持管理の面で懸念があり金属柱とした。（意見⑤）



ワークショップ参加者と一緒に、道路残地をポケットパークとして整備した。

まとめ

- ・一般的に視覚障がい者用の誘導ブロックは黄色の目立つものとなってしまうが、コンクリートとインターロッキングという足ざわりの違いと色相の違いを生かす（歩行実験で検証）ことで問題を解決できた事例である。
- ・地元住民と一緒にデザインを検討したことにより、愛着をもってもらえる道路となり、同様に整備したポケットパークの管理は地元自治会が行っている。

道路

道路改築 路肩 ガードレール
植栽 重要文化的景観 雑草対策

重要文化的景観の区域で、
自然との調和を意識して路肩処理を工夫

【主要地方道平戸田平線道路改良工事（根獅子工区）】

事業概要

平戸市根獅子町
延長1,660m、幅員9.25m（2車線+片側歩道）
農村地帯を通る県道のバイパス工事
（盛土の構築、歩道の整備、側溝・防護柵の設置）



ツツジを植栽した路肩

地域の特徴

平戸島の中部西岸に位置する半農半漁の集落地域である。一帯は、棚田や段々畑を含む良好な農漁村の景観と、キリスト教の信仰に根差した独特の文化が受け継がれてきたことから、重要文化的景観の区域に選定されている。

専門家の意見

- ①防草シートはかえって目立つので、使わない方がよい。
- ②防護柵の種類や色は統一した方がよい。

配慮した点

- I 自然環境に配慮し、法面処理を工夫した。（意見①）
- II 防護柵等の種類、色の統一を図った。（意見②）

【当初計画と整備後の比較】



防草シート(当初計画)



整備後

【整備のポイント】



当初は防草シートを計画し、会議では明度を落とすとしたコンクリートの方がよいとの助言を受けたが、地元自治会の協力を得てツツジの植栽を行った。（意見①）



新設する防護柵（左側）は景観に馴染むグレーベージュとし、既設の防護柵（右側）は更新時に揃えることとした。（意見②）

まとめ

・春はツツジ、秋はススキが沿道風景を彩っており、路肩処理を工夫したことで周囲の自然景観との調和が図れた事例である。

道路

橋梁補修 橋梁 塗替え
世界遺産候補 重要文化的景観 色彩選定

重要文化的景観に配慮し、
赤い橋げたを落ち着いた色に変更

【一般国道202号橋梁補修工事（出津橋）】

事業概要

長崎市西出津町
延長171m、幅員10.3m（2車線+片側歩道）
集落内の谷部に架かる橋梁の補修工事（橋げた・高欄の塗替え）



道の駅から見た出津橋

地域の特徴

西彼杵半島の中部西岸に位置する半農半漁の集落地域である。「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の構成資産である出津教会堂や旧出津救助院（いずれも重要文化財）があるほか、石垣や石築地などを多用した個性的な集落風景が残っていることから、重要文化的景観の区域に選定されている。

専門家の意見

- ①その地域ごとに景観、風景が異なり、施設の構造も異なる中で、その色だけを見て決めるのではなく、周辺との関係で決められた方がよい。

配慮した点

- I 地元協議を丁寧に行いながら色を決定した。（意見①）

【整備前後】



整備前



整備後

【整備のポイント】



赤い色に愛着を持っている地元住民と現地で色見本を使って確認しながら、色を銀鼠色に決定した。（意見①）

まとめ

・地元は当初の赤い橋に愛着を持っており、塗り替えの際も同じ赤でとの要望が強かった。重要文化的景観の区域であることから、赤色は景観上よくないこと、橋はあくまでも景観の一部であることを丁寧に説明し、地元住民と現地で色見本を使って確認しながら色を決めたことにより、周囲の自然景観および集落景観と調和した色彩となった事例である。

道路

道路新設 歩道舗装 橋 梁 高 欄 しまの玄関口で、自然環境と共存・共生する
 転落防止柵 埋立て 捨石 遊水池 眺望のよい道路を整備

【厳原港改修工事（臨港道路）】

事業概要

対馬市厳原町久田道～久田
 延長1,400m（うち橋梁290m）、
 幅員10.75～12m（2車線+片側歩道）
 海岸に沿った臨港道路の新設工事（埋立て、路体の築造、
 橋梁の架設、歩道の整備、防護柵の設置、遊水池の整備）



対岸から見た全景

地域の特徴

対馬の南東部、厳原市街地に位置し、福岡や釜山との定期船が発着する海の玄関口である。市街地内には、江戸時代に築かれた石垣や土蔵などの歴史資産が数多く残り、その背後には緑深く急峻な山々が迫っている。

専門家の意見

- ①耐波性能に支障がない範囲で自然な形の磯を再生するよう、捨石の法線や材料の大きさ・色などを工夫できないか。
- ②捨石で遊びの空間を造り、そこに遊歩道を迂回させれば、観光客も楽しめる場所となるのではないか。
- ③防護柵のデザインは、埋立部と橋梁部とで合わせた方がよい。

配慮した点

- I できる限り自然環境を保全・再生する構造とした。（意見①）
- II 海上や対岸から見たとき、背後の風景と調和するよう配慮した。（意見①）
- III 住民や観光客が快適に通行できる歩道空間の創出に努めた。（意見②）

【計画変更】



当初イメージ

埋立予定地にサンゴの群生が確認されたことから
 橋梁区間を延長（橋梁：160m→290m）



整備後

【整備のポイント】



当初イメージ



当初イメージ



完成イメージ

橋台に角度を付け、光と影の効果を使って連続性を持たせた。（配慮Ⅱ）



完成イメージ

桁隠しを設けることで桁の重たいイメージを軽減させ、また、橋脚を長く見せることによって造形性を高めた。（配慮Ⅱ）



背後の山から採掘した石英斑岩を使用したことで、コンクリート部分との色の調和が図られた。（意見①）



補助事業で遊歩道を設置することはできなかったが、遊水池を確保し、遊びの空間とした。（意見②）



基準に合う既製品を採用したため統一できなかったが、イメージ的には縦横で合わせた。（意見③）



海を眺望できるように、アルコーブを2ヶ所設置した。

まとめ

- ・中間部を橋梁形式にしたことにより、入港船舶や対岸からは橋梁の奥に自然の海岸が見え、島らしい雰囲気を感じることができるものとなった。
- ・埋め立て部分の捨石に地元産の石英斑岩を採用したことで、周辺の海岸やコンクリート構造物の色と調和し、よい景観となった事例である。

道路

歩道新設 高欄 遊歩道
石積 色彩選定

観光の拠点となる場所に、
歴史的景観と調和した遊歩道を整備

【平戸港ふるさとふれあい事業（海岸遊歩道）】

事業概要

平戸市崎方町
延長95m、幅員2m
海岸に沿った遊歩道の整備工事（遊歩道の整備）

地域の特徴

平戸島の北東部、平戸市の中心市街地に隣接する港である。オランダ商館や松浦史料博物館といった主要な観光施設に近く、背後の商店街では、町屋を始めとする地域資源を活用しながら、個性的な街並み整備が進められている。

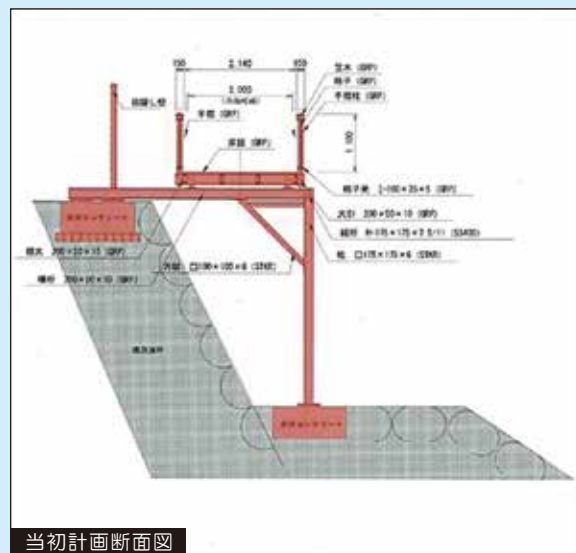
専門家の意見

- ① 対岸から石垣がなるべく見えるように、できるだけ透過性のある構造物が多い。
- ② 目立たない色にした方がよい。

配慮した点

- I 対岸からの既設石積の視認性に配慮し、縦断方向の部材をなくした。（意見①）
- II 色の彩度を下げ、周辺の景観に馴染むように配慮した。（意見②）

【当初計画と最終計画の比較】



【整備のポイント】



対岸からの既設石積の視認性に配慮し、透過性のある構造物とした。（意見①）

当初の計画では木製で明るい茶色の構造物を予定していたが、路面・手すりとも黒に近いダークブラウンで施工した。（意見②）



まとめ

- 色の彩度を抑え、構造形式の変更を行うことで、目立たない構造物となり、周囲の景観に調和した事例である。